

2 出生

(1) 出生数・出生率

平成30年の出生数は4,887人で、前年の5,109人から222人減少し、出生率（人口千対）は7.3（全国第19位）で、前年の7.5を下回った。出生数、出生率ともに昭和46～49年の第2次ベビーブーム以降、ゆるやかな減少傾向が続いている（図1）。

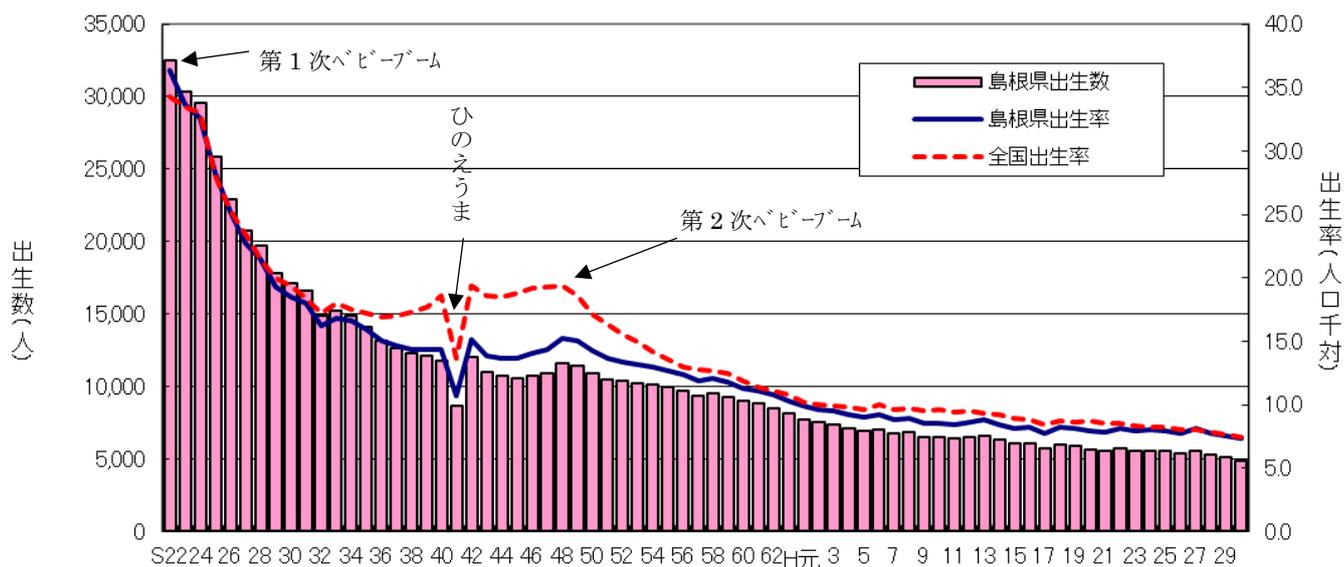


図1 出生数・出生率（人口千対）の年次推移

出生数を母の年齢（5歳階級）別にみると、25歳～29歳、40歳～44歳、45歳～49歳の各階級が前年より増加し、その他の各階級では減少した（表2）。

表2 母の年齢（5歳階級）別にみた出生数

母の年齢	出生数				対前年増減		
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	28年－27年	29年－28年	30年－29年
総数	5,551	5,300	5,109	4,887	△ 251	△ 191	△ 222
～14歳	-	1	-	-	1	△ 1	-
15～19	57	70	38	32	13	△ 32	△ 6
20～24	539	472	459	455	△ 67	△ 13	△ 4
25～29	1,542	1,537	1,361	1,399	△ 5	△ 176	38
30～34	1,985	1,769	1,864	1,739	△ 216	95	△ 125
35～39	1,156	1,152	1,136	982	△ 4	△ 16	△ 154
40～44	266	292	247	270	26	△ 45	23
45～49	6	7	4	10	1	△ 3	6
50歳以上	-	-	-	-	-	-	-

出生順位別にみると、平成 30 年はいずれの出生順位においても、出生数が前年より減少した（表 3）。

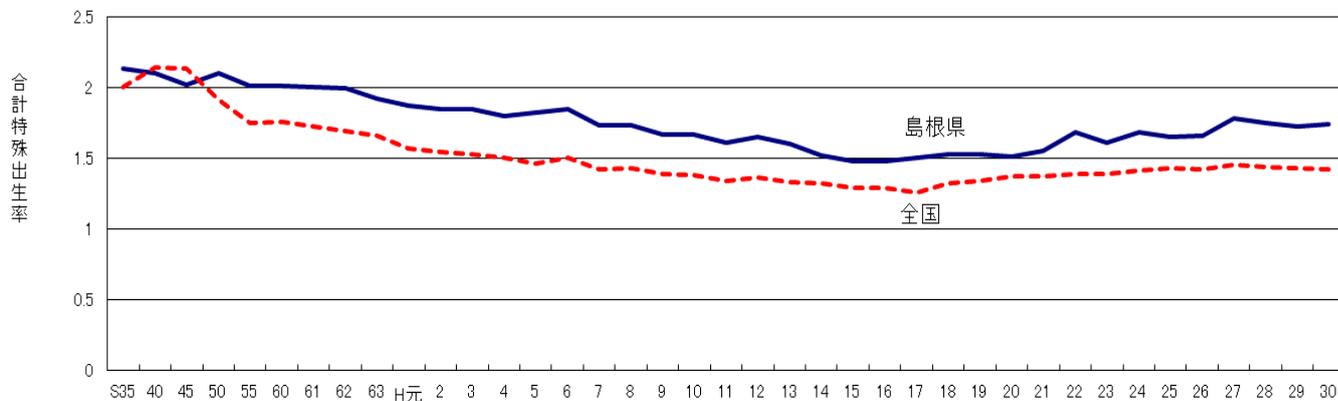
表 3 出生順位別にみた出生数の年次推移

出生順位	出生数				対前年増減		
	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	28年－27年	29年－28年	30年－29年
総数	5,551	5,300	5,109	4,887	△ 251	△ 191	△ 222
第1子	2,306	2,190	2,025	2,021	△ 116	△ 165	△ 4
第2子	2,026	1,933	1,914	1,760	△ 93	△ 19	△ 154
第3子以上	1,219	1,177	1,170	1,106	△ 42	△ 7	△ 64

(2) 合計特殊出生率

平成 30 年の合計特殊出生率は 1.74 であった。全国と比較すると、昭和 50 年以降一貫して島根県が上回っており、平成 30 年の順位は全国第 2 位である（図 2）。

図 2 合計特殊出生率の年次推移



○算出方法

※1 ※2
「(母の年齢別出生数) ÷ (年齢別女性人口)」の 15 歳から 49 歳までの合計

※1 (母の年齢別出生率) = (分子): 「人口動態統計」(厚生労働省)

※2 (年齢別女性人口) = (分母): 「推計人口」(総務省、ただし国勢調査年は国勢調査における日本人人口)

母の年齢（5歳階級）別出生率の昭和45年以降の推移を見ると、年により多少の増減があるものの、概ね20歳代では低下傾向、30歳代では上昇傾向にある。平成30年は25～29歳の階級で上昇し、20～24歳、35～39歳の各階級では下降した。（図3）。

図3 母の年齢(5歳階級)別出生率の年次推移

